

踏切の長時間遮断を防げ!

● 災害時の管理方法を 今年度中に策定へ

2018年の大阪北部地震では多くの踏切で長時間、遮断機が下りたままとなり、救急車の到着が大幅に遅延。通常7分程度で到着するところを、約6倍の42分もかかり、救急救命活動に大きな支障となりました。



公明党では国に対し、長時間遮断の問題を解消するよう要請。昨年4月の法改正により、鉄道事業者と道路管理者が災害時の管理方法を策定するよう義務付ける制度が創設され、6月には全国で181カ所の踏切が指定されました。

大和市内では、小田急江ノ島線の大和1号踏切（厚木街道、写真）、桜ヶ丘1号踏切（中原街道）の2カ所が対象となっています。

首都直下地震などの発生が危惧されるなか、災害時には円滑な避難や緊急輸送を確保する必要があります。そこで、私は県議会の代表質問で、早急に災害時の管理方法を策定するよう黒岩祐治知事に求めました。

● 図上訓練などを実施へ

知事は、「指定された踏切道では、鉄道事業者と道路管理者が連携し、早期に遮断を開放する手順や、消防などの関係機関との連絡体制などを定め、今年度中に対処要領として策定する」と明言。

さらに「その実効性を担保するため、災害時を想定し、関係機関の間で情報の受伝達を行う図上訓練などを実施する。また、発災時に遮断された踏切を開放した際には、県のホームページやツイッターなどを通じて、道路利用者への速やかな周知を図る」と答弁しました。

緊急車両証、エレベーター復旧業者に交付へ

東日本大震災では、震源地から離れた東京都内だけでも84件の閉じ込め事故が発生し、救出までに9時間以上かかったケースもありました。そこで、本県としても、大規模地震発生時のエレベーターの停止への対策を充実させるよう求めました。

知事は、災害時のエレベーター停止対策として、復旧を担う業者が交通規制された道路を優先的に通行できるように、緊急通行車両証の交付を含め関係団体と調整を進めると答弁。また、ただちに救出が必要な場合には消防などが対応するため、県消防学校での教育訓練やビッグレスキューでの高層階からの救出訓練などを通じ、練度の向上を図ると述べました。

簡易型河川監視カメラ、電源のバックアップ機能を整備へ



本県では、水害への対応力強化の対策として水防災戦略を定め、対策を進めてきましたが、昨年7月の大雨で、太陽電池で稼働する簡易型河川監視カメラの画像情報が確認できなくなるという課題なども明らかとなりました。そこで、知事に対し、河川防災情報を真に住民の的確な避難に結びつけるために、きめ細かい対応を求めました。

知事は、監視カメラについて、「引き続き、氾濫した場合に影響が大きい箇所から、監視カメラ等の増設に積極的に取り組むとともに、簡易型の監視カメラについて、順次、電源のバックアップ機能を整備するなど、天候に関わらず、常に画像が提供できるようにする」と答弁しました。

Profile

谷口 和史 プロフィール

- 1962年 和歌山県海南市生まれ
- 1981年 和歌山県立海南高校卒業
- 1983年 大阪外語専門学校卒業
- 1988年 創価大学文学部社会学科卒業（在学中にアリゾナ大学に留学）
- 1989年 ロイター通信社入社（経済記者・ロイターテレビ日本語副編集長を歴任）
- 2005年 衆院選初当選（比例区・南関東ブロック）
- 2006年 総務大臣政務官
- 2008年 国土交通大臣政務官
- 2011年 神奈川県議選初当選（大和市選挙区）
- 2015年 神奈川県議選2期目当選
- 2019年 神奈川県議選3期目当選

県議会

厚生常任委員会

党役職

公明党 神奈川県本部 幹事長

県議会控室

〒231-8588 横浜市中区日本大通1
神奈川県議会公明党控室

TEL: 045-210-7630
FAX: 045-210-8912

QRコードで

LINE

お友達登録



●LINE
ID: kazoo1962

●ブログ
<https://blog.goo.ne.jp/kazufumi-taniguchi>

●facebook
<https://www.facebook.com/kazufumi.taniguchi>

●ツイッター
https://twitter.com/kazu_taniguchi

●谷口かずふみ 県政報告サイト
<https://www.kazufumi-taniguchi.com>